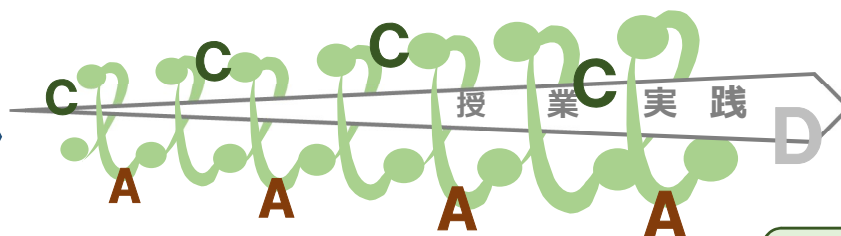


P 指導計画

終末に
「何ができるようになるか」



資質・能力が育まれ
学校の教育目標が
具現される。

生徒の
つぶやきや
様相から Check !



C 「主体的・対話的で深い学び」の視点

□Check 5

・「理科の見方・考え方」を、日常生活などにおける解決の場面で働かせることができたか

「今日の学習は、日常生活の～なところに使われていたのか！」

□Check 4

・仲間と意見を交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりすることができたか

「～さんの結果に付け加えて…」、「～さんの考えと違って…」、「～さんと～さんの意見をモデルで表してみると…」

「本当に、この考え方でいいのかな?…」

□Check 3

・結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりすることができたか

□Check 2

・見通しをもって、仮説を設定し、観察、実験の計画を立案することができたか

「～の観察・実験を行えば、問題（課題）を解決できそうだ！」

「この問題は、○年生の◇◇の学習と関わりがありそうだ！」

□Check 1

・自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題を設定することができたか

A 授業改善のポイント

☞Check 1

自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって課題を設定することができるようにするためには

- ・学習内容の系統性を明らかにした単元を構成すると、育成する資質・能力につながる要素（理科の見方・考え方や学習内容等）が明確になり、単位時間のもつ意味や、単位時間の相互の関係性が見えてきます。学習内容の系統性・順序性・発展性をイメージして単元構想図を作成していきましょう。

☞Check 2

見通しをもって、仮説を設定し、観察、実験の計画を立案することができるようにするためには

- ・事象提示を工夫し、問題を見いださせ、課題を設定させて、具体物で追究できるようにしていきましょう。
- ・自分の立てた予想や仮説が正しければどうなるのかという見通しまで明確にさせることが、自分事の課題解決につながります。

☞Check 3

結果を分析し解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりすることができるようにするためには

- ・生徒が、自分の考えを「理由」や「根拠」に立脚しながら主張したり、他者の考えなどからその妥当性や信頼性を吟味したりすることなどをもとに、自分の考えを見直し、必要に応じて改善できる時間や手立てを講じていきましょう。

☞Check 4

仲間と意見を交換したり、科学的な根拠に基づいて議論したりすることができるようにするためには

- ・科学的な根拠を基に、仲間の意見に対して、自分の考えは同じなのか、少し視点が違うのか、違う意見なのかを聞き分けながら聞き、自分の考えの立場を明確にして、図や表、モデル等を活用して、次の発言につなげていきましょう。

☞Check 5

「理科の見方・考え方」を、日常生活などにおける解決の場面で働かせることができるようにするためには

- ・課題に対するまとめを行い、一般化する終末で、日常生活や社会とつなぐ具体物を提示して学習内容を活用できる時間を確保しましょう。



ここに示したものは、あくまでも一例です。周りの仲間の実践や、学習指導要領解説編なども参考にして授業改善を図りましょう。